

たんぼぼ 国語科学習指導案

日 時：平成26年11月12日（水）

場 所：たんぼぼ教室

授業者：岩見 厚子

1. 単元名 劇を通して気持ちを表現しよう
教材名 「おいしい おかゆ」の自作脚本

2. 指導の立場

(1) 教材観

教材「おいしい おかゆ」は、子供たちにもよく知られているグリム童話で、子供たちに興味があるファンタジーの世界で描かれている。物語の展開が明確であり、登場人物の心情の描写を表現するのに適した教材である。本教材は、感情をより豊かに表現するのにふさわしく、楽しみながら演劇活動することができる。

女の子の「おなべよ にえておくれ」という繰り返しの言葉は、各々の場面の様子を読みとり、心情を想像することで表現の仕方が違ってくる。ほかの登場人物やナレーションも、その情景や心情を読みとることで、場面の様子の違いを比べたり感じたりすることができる。劇を作り上げる過程を通して、人前でも自分の気持ちを表現する力を身に付け、人に伝える力や、言葉に対する興味、関心をもてるようにしたい。

(2) 研究との関わり

【児童の実態】

- ・絵本や紙芝居の読み聞かせでは、どの児童も落ち着いて聴くことができている。
- ・1年A児：正しい発音で抑揚をつけて読んだり、話したりすることができるが、情景、感情を読み取ることができない。自分の思いをうまく伝えることが苦手で、感情的になってしまうことが多いため、クールダウンしてから人への伝え方を学習している。
- ・1年B児：自力で文字を読むことが困難であり、音読をする際は暗記をしてしまう。文字を単語のまとまりや文章としてとらえることが苦手である。発音が不明瞭なところがあり、発音の練習をしている。気分ムラがあり、集中できる時とそうでない時の差が激しいので、動作を入れた学習活動を取り入れている。
- ・2年C児：間違えずにすらすらと読むことができるが、一本調子で、抑揚をつけて読むことができない情景、感情を読みとることが苦手である。滑舌よく話すことができず、話し方がゆっくりである。集中力があり、継続して学習に取り組むことができる。
- ・5年D児：音読を楽しむ姿が見られるが、思いこみで間違えて読んだり、発音が不明瞭だったりすることがある。文節を無視した抑揚で読んだり話したりすることがある。恥ずかしがったり、自信がないと小さな声になってしまう。

研究内容 1

- (1) 付けたい力を明確にし、単元を貫く言語活動を設定する。

付けたい力

- ・場面の变化や登場人物になりきり、伝えたい気持ちや表現する意欲。
- ・登場人物になりきり、自信を持ってみんなの前で発表する力。

単元を貫く言語活動の設定

- ・低学年の児童の前で発表できることを出口とし、音読劇を通して楽しみながら表現活動を行うことで、話す意欲を高めることができる。

研究内容 2

- (2) 考えを広げ、深めるための効果的な交流活動を工夫する。

- ・役になりきって演技ができているかをビデオを見て振り返る。
- ・話し合いの視点を示して、自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりする。

【めざす児童の姿】

- ・1年A児：表現活動を楽しみ、人前でも自信をもって表現することができる。
- ・1年B児：口形に気をつけながら、仲間と共に表現活動を楽しむことができる。
- ・2年C児：話す速さ、声の大きさに気をつけて、抑揚をつけて表現することができる。
- ・5年D児：正しい発音で、はっきりと台詞をいうことができる。

3. 単元指導計画

次	時	ねらい	学 習 活 動	表現の技	指導の手だて 評価規準
1次 (見通しをもつ過程)	1	「おいしいおかゆ」がどんな話かわかる。	1 話の概要をつかむ。 2 登場人物を確認する。 お話にはだれがでてくるのかな。 3 おもしろかったところを発表する。 [深めの発問] お話をしている人はぜんぶでなん人もいるかな。		・絵本の読み聞かせをする。 ・人物の容姿をつかむ。 どんな話が理解している。
	2 3 4	登場人物の様子や特徴をとらえることができる。	1 全員で音読をする。 2 課題を確認する。 出てくる人のせりふを言い、うごきをつけてみよう。 3 場面ごとに全員で台詞を言いながら動作をつけてみる。 4 おもしろかったところを発表する。	・発音 ・声の大きさ	・登場人物の台詞の見本となる言い方をしたり、動きをしたりする。 ・ナレーターの台詞を読む。登場人物の台詞を言ったり、動作をつけたりすることで、劇に対する興味、関心をもっている。
	5	自分のやりたい役を発表できる。	1 全員で音読をして、なりたい役をきめる。 ・ナレーション ・女の子(男の子) ・お母さん(お父さん) ・おばあさん(おじいさん) 2 配役について自分の考えをみんなの前で発表したり、友だちの意見を聞く。 3 台詞を音読し、適役を決める。 4 自分の台詞に印をつけ、何度も間違えないように音読する。	・発音 ・声の大きさ	・【A児、C児】声の大きさ、速さに気を付けて言えているか確認する。 ・【B児、D児】正しい発音ができないところや、言い間違えをしてしまう所をあらかじめ確認しておき、口形を意識して発音する。 なりたい役を発表できる。
2次 (読み方を習得する過程)	6	正しい発音で正しく読むことができる。	1 台詞を読んで課題をつかむ。 1ばめんのせりふを読もう。 2 正しい発音ができているか確認する。 [深めの発問] まちがえていないかきいてあげよう。 3 台詞を見ながら通して読んでみる。	・発音 ・声の大きさ ・速さ	・個の能力に応じて、読みやすくした台本を用意しておく。 ・【B児】単語の区切りがわかるような台本を用意する。 台詞を正しく読んでいる。
	5 6 7	動作をしながら台詞を言うことができる。	1. 1、2 場面の台詞を読んで課題をつかむ。 1、2ばめんのせりふをいいながら動きをつけよう。 2 台詞ごとにどんな動きをしたらよいか話し合う。 [深めの発問] 先生のうごきで、どちらがいいかえらしてみよう。	・発音 ・声の大きさ ・速さ ・間の取り方	・動作の模倣ができるようにする。 ・【B児、D児】恥ずかしがってできないときは、友達の動きを模倣できるようにする。 動作をしながら台詞を言おとしている。

		<p>3 おばあさんが表れる場所はどこがよいか位置を決める。</p> <p>4 動作をしながら台詞を言う。</p> <p>5 動作をつけた練習をする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・【A 児、D 児】教師の模倣をして練習をする。 ・衣装、小道具の準備をする。
8 9 10		<p>3、4 場面も 1、2 場面と同様に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発音 ・声の大きさ ・速さ ・間の取り方 	<ul style="list-style-type: none"> ・【A 児、B 児】取り組みに飽きてしまった時は、別の役をやらせてみる。
11	登場人物の気持ちを理解することができる。	<p>1 課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>とうじょう人物の気持ちを知ろう。</p> </div> <p>2 場面ごとに情景や心情を読みとる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物がなくなってしまった親子の気持ち。 ・おばあさんが現れた時の女の子の気持ち。 ・不思議なお鍋をもらったときの女の子の気持ち。 ・おかゆが出てきたときの親子の気持ち。 ・おかゆが止まらなくなった時のお母さんの気持ち。 ・街に流れ出たおかゆを見たときのお母さんの気持ち。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【深めの発問】</p> <p>じぶんだったらどうおもうかがえよう。</p> </div> <p>3 A 児、C 児...場面ごとの心情をノートに書く。</p> <p>D 児...感情を表す言葉カードの中からその場面に適したカードを選ぶ。</p> <p>B 児...感情を表す絵カードの中から選ぶ。</p> <p>4 3 で確認した感情を自分でも表現してみる。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・感情が表情に表れている絵や、いくつかの感情を表した言葉のカードを用意し、その中から場面にあった心情を選べるようにする。 ・【A 児、C 児】キーワードとなる言葉を示し、そこから読み取れる心情をノートに書けるようにする。 <p>登場人物の気持ちをカード示したり、表現したりしている。</p>
12	台本を見ずに、自分の出番で大きな声で台詞を言うことができる。	<p>1 課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>人前でも、自分の出番で大きな声でせりふを言おう。</p> </div> <p>2 前時の自分の課題を確認する。</p> <p>3 全体を通して劇をする。</p> <p>4 自分や友達のよかったところを発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【深めの発問】</p> <p>自分や友達は、めあてに気をつけて台詞を言えたかな。</p> </div> <p>5 ビデオを見て確認する。</p> <p>6 次時の課題を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさ ・速さ ・間の取り方 	<ul style="list-style-type: none"> ・劇の様子をビデオに録画する。 ・見る観点を事前に掲示して説明しておく。 ・台詞を忘れてしまっても言えるように、台本を用意しておく。 ・【B 児】台詞を覚えていないときは、教師の後に続いて台詞を言えるようにする。発表できないときは、友達の意見を聞いて、教師の質問にうなずく。 人前でも、出番になったら大きな声で台詞を言っている。自分の意見を言ったり友達の意見を聞いたりしている。

3次 (読み方を工夫して読む過程)	13	登場人物の気持ちを考えながら、表現の仕方を工夫することができる。	<p>1 課題を確認する。</p> <p>よみ方やかおのひょうじょう、身ぶりをくふうしよう。</p> <p>2 前時を振り返り、どんな気持ちで台詞を言ったらよいか考え、その気持ちにあった顔の表情や、動作を工夫する。</p> <p>【深めの発問】 かがみで自分のひょうじょうを見てみよう。</p> <p>3 友達と協力しながら劇の中で台詞や身体表現を練習する。 4 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・速さ ・間の取り方 ・抑揚 ・感情 	<ul style="list-style-type: none"> ・感情を表す絵や言葉のカードを掲示し、前時を振り返ることができるようにする。 ・鏡を準備する。 ・【C児】ナレーターも読む時の感情を顔の表情で表せるように声かけをする。 <p>登場人部になりきって表現をしている。</p>
	14 15 16	自分や友達の演技の様子を見て、直すといいいところが分かり、言い方を工夫することができる。	<p>1 課題を確認する。</p> <p>とまらないようにぜんぶとおしてげきをしよう。</p> <p>2 本時の自分の課題を確認する。 3 全体を通して劇をする。 4 録画したビデオを見て、自分や友達の良かった所、直すといいいところを発表する。</p> <p>【深めの発問】 じぶんの直すところをどうするといいいかな。</p> <p>5 直すところを意識して劇の練習をする。 6 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・間の取り方 ・抑揚 ・感情 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通した劇の録画をする。 ・直すといいい観点を事前に説明しておく。 ・【B児】台詞を覚えきれないときは、教師の後に続いて台詞を言えるようにする。 <p>自分の意見を言ったり、友達の意見を聞いたりしている。 自分の課題を理解している。</p>
	17 18	人前でも、登場人物の気持ちを考えながら発表することができる。	<p>今まで学習したことや自分のめあてに気を付けてみんなの前で発表しよう。</p> <p>1 あおぞら学級のみんなに見てもらう。 2 . 1年生の子に見てもらう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・間の取り方 ・抑揚 ・感情 	<p>自分の課題を確認して劇に取り組んでいる。 役になりきって演技をしている。</p>

4. 本時のねらい (12 / 18) 人前でも自分の出番で大きな声で台詞を言い、自分や友達の良かったところを発表できる。

A 児...最後の「おなべよ、おなべ、やめておくれ」の部分を大きな声で速く言うことができる。

B 児...自分の出番が分かり、台詞を言うことができる。

C 児...おかゆが町にあふれ出てくる部分を大きな声で速く言うことができる。

D 児...女の子の顔を見て、ゆっくり、大きな口を開けて台詞を言うことができる。

段階	学 習 活 動				個に応じた指導・援助 評価規準 交流の形態
	A 児	B 児	C 児	D 児	
つかむ	1. 前時の振り返りをし、本時の課題をつかむ。 全員で本時の課題をよむ。				<ul style="list-style-type: none"> 前時までに学習した内容を振り返り、自分の課題を確認する。 前時までの個々の課題を掲示しておく。自分の課題を意識して台詞を言っている。 ビデオに録画する。 台詞を忘れてしまったときに台本を見ながら言えるようにする。 見る観点を先に説明しておく。 課題の部分がよく表現されているかを確認しながら見ることができるようにする。
	人前でも、自分の出番で大きな声でせりふを言おう。				
考えをもつ	2. 本時の自分の課題を確認する。				<ul style="list-style-type: none"> 女の子の顔を見て、大きな口を開けて台詞を言おう。
	<ul style="list-style-type: none"> 最後の「おなべよおなべ、やめておくれ」の部分を速く、大きな声で言おう。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の出るところをおぼえ、台詞を言おう。 	<ul style="list-style-type: none"> おかゆが町にあふれ出す部分を速く、大きな声で言おう。 		
深める	3. 1 場面から 4 場面まで通して劇をする。				<ul style="list-style-type: none"> ビデオを見ながら評価し、価値づける。
	4. 自分や友達の演技の良かったところを発表する。				
まとめる	[深めの発問] 自分や友達は、めあてに気をつけて言えたかな。				<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達の演技を見て、めあてを意識していたかどうかを振り返る。 (A 児)大きな声で台詞を言えたか、最後の台詞の速さや大きさに気をつけていたか確認し、認める。 (B 児)人前でも、自分の出番で台詞が言えたら認め、自信につながるようにする。 (C 児)声の大きさ、速さに気をつけていたかを自分で確かめられるように促し、意識できていたら認める。 (D 児)大きな口を開けてはっきりと言っていたら認め、次への意欲につながるようにする。 自分や友達の演技の様子を見て、直すとよいところが分かり、次に頑張るところを発表している。
	<ul style="list-style-type: none"> ビデオを見て確認する。 自分や友達のめあてができていたか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてができていたか、教師と共に確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や友達のめあてができていたか確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のめあてができていたか、確認する。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 次に自分が頑張るところを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次に自分が頑張るところを教師と共に確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次に頑張るところを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 次に頑張るところを教師と共に確認する。 	